様式第４号（第５条関係）

政務活動費収支報告書

令和　5年　4月　7日

島田市議会議長　　大石節雄　　様

議員氏名　山本孝夫　／

令和　４年度の政務活動費について、次のとおり報告します。

／

収入の部

単位：円

項　目	決　算　額	摘　要
政務活動費交付金	２００，０００円	
計	２００，０００円	

支出の部

単位：円

項　目	決　算　額	摘　要
調査研究費	５４，９１９円	
研修費	３３，６００円	
広報費	0	
広聴費	0	
要請・陳情活動費	0	
会議費	0	
資料作成費	0	
資料購入費	１１，１６０円	
その他の経費	0	
計	９９，６７９円	

政務活動費残額　　100,321 円

16-17

別紙　1

政務活動費支出決算額明細書

項　目	支　出　明　細			領収書貼付用紙の番号
調査研究費			54,919円	
	・文化資源活用視察調査	54,919円		
	・北九州市　(R4、4、20)			
	・地域公共交通事業視察調査			
	・福岡県宗像市 (R4.4.21)			
	・PFI事業視察調査			
	・福岡県行橋市 (R4.4.21)			
	・旅費	41,080円		1
	・宿泊費	12,725円		2
	・手土産代	1,114円		3、4
研修費			33,600円	
	・第27回清渓セミナー受講	33,600円		
	(R4、10、17)			
	・旅費	13,600円		5
	・受講料	20,000円		6
資料購入費			11,160円	7
	・赤旗日曜版 (4月～3月分)	11,160円		
計			99,679円	

決裁	議　長	副議長	事務局長	次　長	係　長	担　当

領収書貼付用紙の番号	1

政務活動出張申請書

令和 4年 4月 11日

島田市議会議長　大石節雄様

島田市議会議員　山本孝夫

市政調査研究（調査研究・研修）のため、下記に出張をしたく届け出ます。

出張年月日	令和　4年　4月２０日から 令和　4年　4月２１日まで
出　張　先	1．北九州市門司区門司港視察 門司港レトロクラブ　（文化資源活用） 2. 宗像市視察　（市役所） オンデマンドバス実証運行について（地域公共交通事業） 3. 行橋市視察　（行橋市役所・図書館） 行橋市図書館等複合施設整備事業について（ＰＦＩ事業）
出張の目的	・既存の文化資源を活用し、観光に繋げている事業の先進事例として調査する。 ・令和３年度の決算審査において重要案件として選定したＰＦＩ事業と地域公共交通事業の先進事例として、経過及び費用対効果を調査する。
行程・利用交通 （交通手段の理由）	別紙の行程表（交通費計算書）による。
旅費	別紙　政務活動出張旅費支出伝票による

決裁	議長	副議長	事務局長	次長	係長	担当

領収書添付用紙の番号	

政務活動出張旅費支出伝票

出張日	令和 4 年 4 月 20 日 ～ 令和 4 年 4 月 21 日			
出張先	福岡県北九州市～福岡県宗像市～福岡県行橋市			
旅費	交通費	宿泊費	日当	参加者負担金等
下記計算の基礎参照	41,080円			
			計	41,080円

計算の基礎

旅程　合計 1937.4 km

往路　金谷 ～ 掛川 ～ 新大阪 ～ 新下関 ～ 下関 ～
門司 ～ 門司港　東郷

復路　瀬戸 ～ 宗像市役所前 ～ 東郷 ～ 西小倉 ～ 行橋
小倉 ～ 新大阪 ～ 掛川 ～ 金谷

鉄道運賃　※601キロ以上は往復割引適用(同一経路のみ)、地下鉄等は2キロ以上から

		↓片道キロ数		
金谷 ～ 門司港	(894.8 km)	片道	11,920 円
門司港 ～ 東郷	(50.7 km)	片道	1,130 円
東郷 ～ 行橋	(63.1 km)	片道	1,310 円
行橋 ～ 金谷	(919.8 km)	片道	12,270 円
		計	26,630 円

加算運賃（ＪＲ北海道、四国、九州）　km　円
(　　)

鉄道運賃計　26,630 円

特急料金等 ※乗継割引利用な場合は利用、座席指定の可否確認、片道キロ数確認

新幹線	掛川 ～ 新下関	(859.4 km)	片道	7,030 円
	小倉 ～ 掛川	(878.4 km)	片道	7,030 円
在来線特急	～	(km)	往復	円
在来線急行	～	(km)	往復	円
座席指定料金	～	(km)	往復	円

		↓片道キロ数		
車賃(ﾊﾞｽ・ﾀｸｼｰ)	瀬戸 ～ 宗像市役所前	(9 km)	片道	390 円
航空賃、船賃	～		往復	円

交通費合計　41,080 円

宿泊料　@13,100×泊　円

日当　@2,600×日＋@1,300×日　円
↓日当の調整がある場合は、理由を記載すること
(　　)

その他　円

旅費合計　41,080 円

別紙　2

領　収　書　等

項　　目	調査研究費		
支出明細	宿泊費	領収書貼付用紙の番号	2

別紙

ご請求明細書
Amount Description

Royal Hotel 宗像
TEL 0940-62-4111
FAX 0940-62-4000

ありがとうございました。またのご利用をお待ち申し上げております。

客室番号 Room No.	お名前 Name Of the Guest	人数 Pers	ご利用日 Date
1203	Mr. Ms. 山本 孝夫 様	1	22.04.20－22.04.21(1泊)

日付 Date	摘要 Description	料金 Charges	お支払 Payment	備考 Remarks
04.20	御宿泊代	12,375		@12,375×1
04.20	入湯税	150		
04.20	宿泊税	200		
小計 Sub Total		12,725	0	

(内消費税 Con.Tax ¥1,125)
(内入湯税 Con.BathTax ¥150)
(標準税率 ¥12, 375)
(軽減税率 ¥0)

ご請求額 Balance Due	12,725
ご返金額 Refund	

誠に勝手ながらサービス料と規定の税金を加算させていただきます。

No. 202204210024
発行日 2022.04.21
00435 CA 1
Royal Hotel 宗像

ご署名
Signature

会社名
Firm

(1/1)

領収書
Receipt

No. 202204210024
2022.04.21
CA

山本 孝夫 様

¥12,725※

上記正に領収致しました
但、

(内消費税 Con.Tax ¥1,125)
(内入湯税 Con.BathTax ¥150)
(標準税率 ¥12, 375)
(軽減税率 ¥0)

印紙税申告納付につき香椎税務署承認済

Royal Hotel 宗像
〒811-3514 福岡県宗像市田野1303
TEL 0940-62-4111 FAX 0940-62-4000

注)
コーナー利用の消費税は別紙をご覧ください。

領　収　書　等

項　　目	調査研究費		
支出明細	手土産代	領収書貼付用紙の番号	3

領　収　証

No.

令和 平成 4年 4月 11日

大興産業　様

金額					7800

但し 御菓子代として

上記正に領収いたしました

収入印紙

小饅頭

株式会社 清水屋

代表取締役 清水 克

〒427-0022
静岡県島田市本通2丁目5番の5
電話 〈0547〉37-2542

係

7人で除する

領　収　書　等

項　　目	調査研究費		
支出明細	手土産代	領収書貼付用紙の番号	4

領収書

令和　4年　4月20日

山本孝夫　様

金額　¥1,114

但し、手土産（菓子）代金として上記正に領収いたしました

島田市河原1－7－28　大関衣世

決裁	議　長	副議長	事務局長	次　長	係　長	担　当

領収書貼付用紙の番号	5

政務活動出張申請書

令和　4年　8月　24日

島田市議会議長　大石節雄　様

島田市議会議員　　山本　孝夫

市政調査研究（ 調査研究 ・ 研修 ）のため、下記に出張をしたく届け出ます。

出張年月日	令和４年１０月１７日 から 令和４年１０月１７日まで
出　張　先	日本青年館ホテル８Fカンファレンスルーム 東京都新宿区霞ヶ丘４－１
出張の目的	第２７回清渓セミナー参加 ２０２２年１０月１７日～１８日 の内　１７日のみ参加　１日日帰り 主催　清渓セミナー実行委員会 共催　一般社団法人日本青年館
行程・利用交通 （交通手段の理由）	別紙の行程表（交通費計算書）による。
旅費	別紙　政務活動出張旅費支出伝票による

決裁	議長	副議長	事務局長	次長	係長	担当

領収書添付用紙の番号	

政務活動出張旅費支出伝票

出張日	令和 4 年 10 月 17 日 ～ 令和 4 年 10 月 17 日			
出張先	日本青年館ホテル			
旅費	交通費	宿泊費	日当	参加者負担金等
下記計算の基礎参照	13,600円			
			計	13,600円

計算の基礎

旅程　合計 435.4 km

金谷 ～ 静岡 ～ 品川 ～ 代々木 ～ 信濃町 ～

代々木 ～ 品川 ～ 静岡 ～ 金谷 ～

鉄道運賃　※601キロ以上は往復割引適用(同一経路のみ)、地下鉄等は2キロ以上から

↓片道キロ数

金谷 ～ 信濃町	(217.7 km)	往復	7,480 円
	(km)	往復	円
～	(km)	往復	円
～	(km)	往復	円
		計	7,480 円

加算運賃（ＪＲ北海道、四国、九州）　km　円

(　　)

鉄道運賃計　7,480 円

特急料金等 ※乗継割引利用な場合は利用、座席指定の可否確認、片道キロ数確認

新幹線	静岡 ～ 品川	(173.4 km)	往復	6,120 円
在来線特急	～	(km)	往復	円
在来線急行	～	(km)	往復	円
座席指定料金	～	(km)	往復	円

↓片道キロ数

車賃(ﾊﾞｽ・ﾀｸｼｰ)	～	(km)	往復	円
航空賃、船賃	～		往復	円

交通費合計　13,600 円

宿泊料	@13,100× 泊	円
日当	@2,600× 日＋@1,300× 日 ↓日当の調整がある場合は、理由を記載すること (　　)	円
その他		円

旅費合計　13,600 円

別紙　2

領　収　書　等

項　　目	研修費		
支出明細	受講料	領収書貼付用紙の番号	6

No. 26

領　収　書

2022年10月14日

静岡県
島田市議会　山本孝夫　様

¥20,000.—

第27回清渓セミナー参加費として上記の金額を領収いたしました

清渓セミナー実行委員[redacted]
〒160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘
日本青年館
ＴＥＬ　03-6452-9012

別紙　2

領　収　書　等

項　　目	資料購入費		
支出明細	赤旗新聞講読料	領収書貼付用紙の番号	7

R4.4～R5.3　12ヶ月分　@930.-
2022年度

領　収　証　　山本孝夫　様　No.

★　¥11,160-

但　赤旗日曜版（2022年度分）参考資料

2023年　3月　31日　上記正に領収いたしました

内　訳

税抜金額

消費税額等（　%）

日本共産党
静岡県中部地区委員会
〒427-0012　島田市細島682-4
TEL.〈0547〉36-9122

[redacted]

収入印紙

コクヨ　ウケ-1097

調査研究報告書

令和５年４月７日

島田市議会議長　　大石　節雄　様

島田市議会議員　　山本　孝夫

令和４年度の調査研究テーマに基づく活動等について、次のとおり報告します。

少しは緩やかになってきた新型コロナウイルス感染症による活動制限がまだ残っており、視察研究が十分できない状況が続いた。そういう中で機会を見つけ情報収集に努めた。

以下、４年度当初に提出した研究テーマについて報告する。

１．　行財政改革について

令和４年４月の福岡県行橋市の行政視察では、地域交流拠点および情報発信拠点として図書館を中心とした公共施設をPFI方式で整備した事業を視察した。詳しい報告は別紙に述べたが、15年間５０億円の費用を投じ整備した事業であるが、推進した市長は次の選挙では落選したと聞く。財政力は島田市より弱くそこに来てこの投資額は市にとって重すぎるだろうと推察した。視察時にもそのあたりのことを質問したが、明確な回答はなかった。その後島田市におけるPFI事業について議会開催ごとに議論を展開してきたが、行橋市ほどの負担はないものの図書館や公民館の利益追求のできない施設のPFI事業は難しいと判断した。この結論の下、議会での議論に役立てた。

令和４年１０月の東京でのセミナーでは「改めて地方創生を考える」をテーマに石破茂氏の講義を受けた。人口減が進む未来において、地方自治体がこれもダメあれもダメと言っていては地方都市は伸びない。どこかがこれに成功したからと言ってそれをまねてもダメだ。その地域にはそれぞれの特徴特性があってそれを一番理解しているのは地元だ。地方が独自で知恵を働かせ地方創生につなげることを学び、心がけて活動することにする。

２．　防災、環境対策について

今年度の調査研究でコロナ感染の制限から実施の機会がなく、継続調査とする。

３．　島田市の教育について

中学校部活動の地域移行について、島田市の姉妹都市である氷見市はスポーツ協会が充実しておりその受け皿となって対応を進めていると聞き、教育委員会に調査依頼したが、氷見市側からコロナ感染の対策の一環で断られてしまった。来年度は姉妹都市交流も再開する計画なので、その折に調査を行いたいと考える。今年度は継続調査扱いにする。

４．　島田市の活性化について

令和４年４月の北九州市門司港視察では、歴史的建造物を活用しレトロをテーマに観光化に成功した。またバナナの輸入窓口港としてバナナをテーマにしたキャラクターづくりや商品開発に力を注いでいることが分かった。その土地の歴史や特性を生かし地域活性化につなげていることを学んだ。

同月上記に続く宗像市の視察ではオンディマンドバス「のるーと」について調査した。公共交通の問題は島田市でも同様である。住宅が密集する団地で運用される事例は山間部が多い島田市とは地理的条件が異なり参考例としてイコールではないが、運用方法が今後の生活で当たり前になってきているスマホの活用や AI を利用したバス運行事例は参考になった。ソフト面での費用負担が実状に合えば、島田市でも活用可能なシステムであると思う。これを参考に今後の施策審査につなげてゆく。

令和４年１０月のセミナーでは、大南氏による徳島県神山町の小さな町の進化の話や同セミナーの木下氏による議会と自治体の果たす役割の話では、地方自治体の活性化では覚悟を持った人材が必要だということを学んだ。それは外部からでも地元からでもよい。それを阻害するのはミスを恐れるダメダメ住民の大衆である。国からもらうことを優先に考えるのではなく、自ら稼ぐ覚悟を持った人材育成とそれを受け入れる土壌が必要と理解した。島田市はどうかと問いながら活動してゆく。

今年度は書籍の購入は行わなかった。

今年度はコロナ感染の制限で思うような研究ができなかったが、来年度は制限が緩和されると聞くので大いに研究を深めたい。

報　告　書

令和　4年　5月26日

島田市議会議長　　大石節雄　様

島田市議会議員　　山本孝夫

市政調査研究（ 調査研究 ・ 研修 ）のため、出張したので報告します。

出張年月日	令和４年４月２０日 から 令和４年４月２１日まで
調査研究 出張先及び 調査項目	１．　北九州市門司区門司港視察 門司港レトロ観光まちづくりについて ２．　宗像市視察　市役所 オンデマンドバス実証運行について（地域公共交通事業） ３．　行橋市視察　行橋市役所・図書館 行橋市図書館等複合施設整備事業について

報告事項	総務生活常任委員会で今年１月に企画したがコロナ感染状況により中止となったが、今回感染状況の改善が見られたので有志のグループとしてこれらの調査研究を行うこととした。 １．　北九州市 明治大正時代には門司港は日本の三大貿易港の一つで九州の中心都市であった。門司港駅舎をはじめ、多くの歴史的建造物も多く残存していた。この地域全体を整備しなおし観光地化していく歩みについて調査した。 この地域の施設を一回り見学した後、北九州市観光部門司港レトロ課の大浦氏より説明を受けた。 昭和の時代に入って以降九州の中心は福岡市が中心となり、門司は単に交通の通過点となってしまい地元の活性化が求められる状況にあった。そこで第一期事業は昭和６３年度から、第二期事業は平成９年度から駅舎をはじめ建築物の整備、観光地としての情報発信特産物の開発、イメージチャラクターなどの形成など長期にわたりまた多額の投資を行って観光地化に成功した。レトロイメージを利用し観光会社や民間のアイデアの協力を得てまちづくりにつなげている。観光客数も倍に、観光消費額は３倍にもなった。学生の修学旅行先にもなっていると聞く。 観光地には名物があるが、ここ門司がバナナの叩き売りの発祥地でバナナをテーマにしたキャラクターの登場やそれにまつわるお土産品の開発に取り組む。また食べ物は焼きカレーがここの名物でどこのレストランでもこのメニューが主役となっている。 レトロが観光に本当につながるだろうかという疑問もあったらしいが市を挙げて長期的で継続した計画を進め、古めかしいを新たな視点としてまちづくりに成功している。政令指定都市でもあり財政規模も大きく島田市のような中規模地方自治体と比較にならない大胆な取り組みが行われたと感じる。 しかしながら、島田市に置き換えて考えてみると、規模はちがうが歴史的遺物があり、歴史的文化もある。長期的な計画で住民に本当に受け入れられる観光地化なら大きな投資をしても可能かもしれない。ただ今の状況は観光要素が分散して連携が取れていない。名物や目玉イベントなど独自性をもった観光戦略が求められると思う。緑茶化計画では自己満足に終わってしまっているのではないか。 ２．　宗像市 宗像市が行っているオンデマンドバス「のるーと」について島田市の公共交通の今後の在り方の参考にするため視察した。宗像市は大都市の北九州市福岡市の間にありベッドタウンの要素もあるので資料を見ればここ数年人口減になっておらず横ばいである。財政力

	指数は０．６０ではあるが人口はほぼ島田市と同じ、面積は三分の一、しかし島田市のように山林が多く占めているわけではない。その点住民生活に力を注ぐ余力があるのかもしれない。 宗像市都市再生課の内田氏許斐氏日野氏金子氏大塚氏から説明を受けた。 のるーとの実施地区は東郷駅に隣接する日の里団地一帯人口１４０００人の地区、小型のオンデマンドバスを電話またはスマホで予約し、あらかじめ設定してある居住に近いポイントに呼んで希望する目的地まで運ぶシステム。運行経路はAIが自動生成し決定する。この点が最も優れているところだと認識する。このシステムはカナダの会社が開発し長野県塩尻市でも採用しているらしい。実施地域は狭くほかの交通手段、鉄道、ふれあいバス、コミュニティバスともリンクして市内全般を網羅している。実証運行の途中ではあるが現状効果を現わしていると聞く。 さて島田市に置き換えてみよう。島田市のコミュニティバスのニーズは町中ではなく中心から離れている地域の生活利便性を高めるを目的としてスタートしたと聞いている。病院へ行くとかまとまった買い物に行くとか毎日使うというわけではないと思われる。一方宗像市の場合は日の里地区に限定した近距離を日常使うという気軽な足として活用していると思われる。また新興住宅地として過去同時期に移り住んだ住民が多く、システムの理解が一律にうまく進むことがあったのではないか。島田市の場合はまちまちで理解がスムーズに進まない恐れがある。参考までに議会の中もペイパーレスが進みタブレット端末利用も全議員問題なく使いこなしている。この辺りは宗像市が九州地区ではあるが北九州市と福岡市の大都市の中間の住宅都市として生活していてITCレベルが高いのかなと感じる。 このシステムはとても良いとは思うが、利用範囲の設定の検討やそれを使いこなす住民の理解力向上を整えないと今すぐの活用は困難と思う。こういうシステム公共交通以外に何か活用できないだろうか。柔軟に考えてヒントとなるシステムと思う。 ３．　行橋市 本事業は行橋市の地域交流の拠点、文化・情報の発信拠点として機能が発揮できる施設として、図書館を中心とする公共施設とカフェ等の民間施設の複合施設を整備し、PFI方式を採用し建設整備とともに維持管理・運営を行っていることを調査し、今後の島田市のこれからのPFI事業と比較しながら、良い点、問題点を考える機会とした。 行橋市都市整備部林氏、土肥氏より説明を受ける。説明および質

	疑を行った後、現地の施設リブリオ行橋を見学に回った。旧市の施設跡地を活用し図書館を中心とする施設を建築、建設は鹿島建設によりまた図書館運営は図書館流通センターによる。ある意味一流企業が参加のPFI事業である。事業費は総額約５０億円、半分が建設費、半分が15年間の維持管理費である。図書館は図書館法により営利活動はできないが、図書館に付随して整備された小規模交流空間スペースを利用して活動できる。 ２期８年市長になった前田中市長による構想、建設、開業となったと聞く。途中議会ではこの事業について賛否は真っ二つとなってすんなりと進められたわけではない。令和２年４月に供用開始、まだ間もない施設でコロナによる影響から評価を云々するのは少し早いかもしれない。建設された図書館は奇抜なデザインで確かに面白いかもしれない。しかしそれは上空から見下ろせば認知できるが、内部に入ってもちょっと変わった造りだなと感ずるに過ぎない。ゆったりした造りだといえばそうだが無駄なスペースが多いのではないか、目的は住民が大勢集りやすい施設を継続して運営できるかが最も重要なポイントだと思う。 行橋市は自治体規模では島田市の4分の３程度で、財政力指数は０．６６島田市は０．７４ということを考えるとここに総額５０億円を費やしてPFI事業を進めるのだろうかと疑問を持つ。少なくとも建設費約２５億円はやりすぎだ。また質疑応答で１５年の運営管理は長すぎないかの問いに事業者から５年では投資ができない。１５年にしてほしいとの要望で１５年としたとの答え。驚いた、元々市側から要求水準書で定めておいたものを事業者の都合で変えて対応すべきなのか疑問が残る。これも入札応募者は１者であったことの弊害か。市としてどうしてもやりたい。又はどうしても市長がやりたいというにおいがする。さらに運営管理の成果のチェックは事業評価の協議会を設置せず、常任委員会でチェックするという島田市の準備しているチェック機能に比べればずいぶん甘いなと残念ながら思う。 他市の事業を外部の議員が視察をお願いしておいて外部からダメ出しをするのは失礼なお話と思い、途中で質問は中止した。残念ながら首長の思い一つでこんなに大きな事業が動いてしまうのだ。ダメになると確信があるわけではないが、大きな負担になることは間違いない。それでも自治体は動いているのだ。 話を島田市に戻せば、やはり応募者は１者でありこれから詳細仕様もすり合わせをしていくと聞く。島田市PFI事業も特に公民館運営については同運営審議会からも質問状が出されたり、住民にとって不安要素もある。常任委員会でもチェックするとともに事業評価の審議会の審査内容について十分に注視すべきと考える。

北九州市　門司港駅内にて

宗像市 議場にて

行橋市　複合施設 リブリオ行橋の前にて

報　告　書

令和　４年１２月２１日

島田市議会議長　　大石節雄　様

島田市議会議員　　山本孝夫

市政調査研究（調査研究・研修）のため、出張したので報告します。

出張年月日	令和　４年１０月１７日から令和　４年１０月１７日まで
研修 研修名、出張先及び主催者	第２７回　清渓セミナー 日本青年館ホテル　カンファレンスルーム 東京都新宿区霞ヶ丘町４－１ 主催者　清渓セミナー実行委員会
報告事項	2日間のセミナーであったが、１日のみ受講した。 講義　１　「今改めて地方創生を考える」 講師　石破　茂氏　衆議院議員 講義の内容は未来においてどういう日本の状態になっているかを見据えて今何するかの提言である。 人口減が進みこのままでは2100年には日本の人口は5700万人になり、平成の大合併で自治体数は3000以上あったが今は1716自治体となった。国から1億円の補助金が出たとき何にそれを使うか。そういう時に地方の知恵が試されている。自治体が自ら考え自ら実行する。それが地方創生の基本的考えであると説く。国は細かい地方都市のことはよく知らないのだ。 江戸時代から明治時代に入ってから富国強兵、殖産興業の名の下東京一極集中が進んできた。一極集中は世界的に見て韓国と日本だけだ。欧米にはない。 最近の風潮は贅沢願望がなく多様な価値観が進む中、今までの地方行政では失敗することも多い。リーサスシステムでは成功事例より失敗事例の方がはるかに多い。 農業林業漁業に恵まれている地域で、これもダメあれもダメと言っている都市は伸びない。小林市の事例をあげ将来地元に戻ってくる子供を育てる施策、乗りたくなる鉄道、バスの在り方の施策、地方が独自で知恵を働かせ地方創生をしてもらいたい。

講義　２　「徳島県神山町　人口５０００人の小さな町は
なぜ進化し続けるのか」
講師　大南　信也氏　神山まるごと財団代表理事

神山町はひところ２万人だったが今は５０００人高齢化率は５０％となった。田舎で自分の役割は何かと考え、日本の田舎を素敵に変えることをテーマに施策を考えた。もともと仕事を持った５世帯２０人の移住を軽微な住宅補修をして住んでもらう。補助金も出しこれを毎年続ける。地域の人口構成を変える移住者が必要でNPO法人グリーンバレーを作り神山町移住支援センターを２００７年にスタートさせる。良いと思うことはやっておく。その時は不明だが何かに役立つだろうと考え進めておいたものが後に役立つことが多い。そういう移住者でも地方に呼び込みまずはなんでもやってもらう。まちづくりの原点は人づくりだと言う。

移住者により芸術作品の展示を行いそれを結ぶルートを整備してみるとアートの森づくりができた。感銘を受けた本を３冊寄付をしてもらう運動を続けたらだんだん本が増えて個性のある図書スペースができたなどの事例の紹介があった。

話を聞いてみて結論は人づくりだと思う。大南氏は自分の事業を進めながら一方で地域の新しい取り組みを誘致する仕事をしてまちづくりに寄与してきた。なかなか自分の生活に余裕がないとできないことだと感じた。仮に余裕がある人がいて思いがあってもその土地が閉鎖的であったらダメでしょう。さて島田市はどうだろうかと考えさせられた。

講義　３　「地方創生　議会と自治体の果たすべき役割」
講師　木下　斉氏
（一社）エリア・イノベーションアライアンス代表理事

木下氏は都市経営プロフェッショナルスクールを経営している方である。このスクール参加者は7割だ自費で参加しているとのこと。やる気のある人はやらせられるのではなく自分からやるのだということだ。

「貰う事より稼ぐこと」地方行政はとかく補助金だより交付税だよりになりがちだ。鯖江市では眼鏡生産が有名だが、精密機械のへの転換を眼鏡の技術を活用して進めている。

「百人の合意より一人の覚悟」いくら大勢が寄ってたかっても覚悟をもって事に当たれという。

これらはスクールでの教えの基本的考えと思われる。空き店舗の活用や地域で儲かる仕事を作るとかどこの自治体でも聞くが、しっかり市場調査を行い、何の需要があるかを調査しておく必要がある。開発の失敗事例はたくさんある。

そういう中で岩手県紫波町の公民合築施設オガールプラザの事例紹介があった。ここでは体育施設をPFI事業で進め成功事例として有名である。事業を進める上で１００回以上の公民連携特別委員会と住民説明会を行なって進めた。体育施設は牧畜のサイロの技法の木材の組み方で建築、床はオリンピック仕様のものを使用と聞くが建築単価は４１万円１坪当たりと安い。事前に住民とよく話し合い

	地元の技術を採用しつつ安価な方法で建築、その後のメンテナンスの安く済む方法を公民で進めた。 この話を聞いて今回の金谷地区のPFI 事業の進め方と対比して見ざるを得ない。住民との話し合いがなく、協力者も少ない中、進める事業が本当にうまくいくかどうか見ものである。 ３つの講義を受けて共通していることはやる気のある人材が必要だということだ。何をするにもよそでやっているからうちでもやろうという考えでは地方創生はできない。地域のことは地域の方が一番理解している。そういう人材が出てきたとき自治体がどう受け止めるか首長の器が試される。 このセミナーを受講するにあたり目的は、石破氏にこのまま国が赤字国債を発行し続けてよいのかを問うためであった。講義中質問を出したが、答えは赤字国債はあまり発行しない方がよいとのありきたりの答えであった。国の責任を明言できないのだろう。おそらくいけないこととは知りながら答えが見つからないのが現実だろう。 地方自治体は結局国に頼らない行政を方向付けていかないと国が助けてくれない時が来たとき途方に暮れることになる。

会場

日本青年館ホテル

カンファレンスルームにて